公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年11月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆私たちの探鳥会自慢
「もりおか・定例高松の池探鳥会」・・・・1
◆探鳥会訪問記 特別編（日本野鳥の会栃木探鳥会リーダー研修会参加報告）・・・・・3
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・5
（2015年９月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・7
・探鳥会リーダーズフォーラムを開催します
・探鳥会スタッフ通信 メール版の送信形態の移行について
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・11
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・12
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆私たちの探鳥会自慢

もりおかの事務局次長、熊谷さんから定例高松の池探鳥会について紹介していただきました。

「もりおか・定例高松の池探鳥会」

■盛岡市探鳥地「高松の池」のご紹介

「高松の池」は、南部藩主が盛岡城築城を開始した当時、治水目的の堤防を築き、その中で最も大きかった池だと言われています。

現在、高松の池は「高松公園」として親しまれています。周囲1.7ｋｍの池の周辺は、日本さくらの名所 100 選に選ばれ、「さくらの名所」としても知名度があります。池の北側には釣り堀・葦原があり、東側の丘陵地には畑・果樹園・スギ・アカマツ・落葉樹林の雑木林が広がり、水辺の鳥から山野の鳥まで身近に多くの野鳥が観察できます。多い時で50種以上、少ない時で20種程の野鳥を観察することができ、初夏はオオルリ・キビタキ・サンコウチョウがさえずり、コムクドリは巣穴をさがし、葦原にはオオヨシキリ・コヨシキリ・ヨシゴイ・バンが見られます。また、雑木林ではオオタカが営巣し、湖面にはミサゴがダイブする様子が見られます。冬になるとオオハクチョウ・カモ類が飛来し内陸に入るオジロワシが上空を飛ぶこともあり、畑や林にはベニマシコ・キクイタダキ・マヒワが訪れ、そして、「さくらの名所」

▲高松の池

に嫌われるウソも多く見られます。

■定例高松の池探鳥会

「日本野鳥の会盛岡支部（現日本野鳥の会もりおか）」がこの地に発足したのが1979年(昭和54年)。今年で結成36年になります。結成メンバーは、盛岡とその周辺の日本野鳥の会会員と岩手大学野鳥の会準会員のメンバーたち。県内３番目の支部として結成されました。結成当初から岩手大学野鳥の会のフィールドであった「高松の池」を活動拠点として現在に

至っていることから、いわば「高松の池」は、当会の原点と言ってもいい場所です。

現在、会員数は 120 名程の小規模な団体ですが、初心者向け一般公開探鳥会として各マスコミに PR 活動を行い、毎月第二日曜日に開催していることから市民の認知度も高く、幅広い層の方が参加されます。通常の定例探鳥会は 30 名程ですが、バードウィークの５月は盛岡市との共催により 100 名程の参加者があり、当日の運営に嬉しい悲鳴をあげています。探鳥会は初心者向け一般公開探鳥会ですので、自然に対するマナーや「鳥合わせ」の説明等は当然のこととしておこなっています。また、多くはこの探鳥会が入会のきっかけとなりますので「鳥合わせ」後の入会 PR は欠かせません。

この高松の池の探鳥コースは車両の通行もあり、探鳥するにあたり安全が第一です。また、倒木やスズメバチ等にも注意が必要です。ウォーキングやジョギング等、一般の通行人もいる場所で、ある程度の員数で狭い散策路で鳥を見るので一定の配慮が必要です。今では、参加者同士で、「車！」「ランナー！」等と声を掛け合うのが習慣となっています。

▲2015 5.10 定例高松の池探鳥会の様子

■当会「もりおか」は羨望の的？

最近、各連携団体では会員数の伸び悩みと高齢化が共通の課題となっており、当会も若い世代の会員が少ないのが現状です。しかし、近年、会結成当時から縁のある「岩手大学野鳥の会」と連携して活動を行い、活性化を図っています。

本年、６月に「東北ブロック協議会総会」を当会担当で開催した折、当日の運営等、学生諸君がおおいに活躍をして、「もりおか」の若い力が羨望の的となりました。

岩手大学キャンパスは高松の池に程近く、学生の生活エリアとなっていること、当会会員に同大学野鳥の会 OB がいること、また、当会幹事に大学関係者がいること等、比較的連携体制が取りやすい関係にあります。一方で、以前は、農学系で野生動植物のフィールドワークをする学生はほとんどが同大学野鳥の会で活動していましたが、現在は様々なフィールドワークをおこなっているサークルが増えてきて、以前のような活動ができないのが悩みのようです。

このように互いに課題を抱えた状況であることから、相互に会の活性化を図ることができるようにと、当会の幹事会に学生幹事を設けるなどして、定例高松の池探鳥会はもとより、遠征探鳥会（大潟村・伊豆沼）、岩手大学農学部付属演習林「自然観察会」（当会と共催）、また、当会が（公財）日本野鳥の会より管理を任されている「イヌワシ保護区」の間伐作業等々、関係行事の相互協力に取り組んでいます。

■会員サービスか？　データの継続性か？

定例高松探鳥会は、夏期（4～9 月 AM7-10 時）冬期（10～3 月 AM9-12 時）の開催期間及び時間を設定してきました。ところが本年、参加者から通年で同一時間のなるべく遅い時間帯で開催を考えてみて欲しいとの要望がありました。要望される参加者の皆さんは、遠方からの方や子供連れ等なので、配慮されるべき点もあったわけですが、幹事会で協議した結果、当会としては 30 数年この設定で出現鳥のデータをとってきたこともあり、データの継続性を優先することとして現行のままでの運営としました。会員が減少傾向の中ではありますがイベント性を優先するのではなく、あくまでも自然観察とそのデータを蓄積することに重きを置くべきとの判断をしました。

その背景には、このところ当会の活動エリアでは軒並み風力発電の設置が計画され、当会としても戸惑いながらも調査等に対応していることがあります。福島原発事故、急速な再生可能エネルギーの導入、地球温暖化がもたらす気象変動、加えて TPP による産業構造の大きな変革も差し迫るなか、日本の自然環境が大きく変わる節目にあるのではないかと感じざるを得ません。

ささやかではありますが、探鳥会等様々な行事を通じて地域の環境保全と環境意識の高揚に少しでも役立つよう活動することが、日本野鳥の会「もりおか」の役目ではないかと思っています。

（日本野鳥の会もりおか事務局次長／熊谷淳一）

◆探鳥会訪問記 特別編（栃木 探鳥会リーダー研修会参加報告）

９月 26 日（土）～27 日（日）に、「日本野鳥の会栃木 探鳥会リーダー研修会」が開催されました。栃木では、ここ数年研修会が開催されていなかったとのことですが、昨年の探鳥会リーダーズフォーラムの分科会もきっかけとなり開催されました。

ここでは特に、情報交換の時間に集まった探鳥会での工夫グッズについて紹介します。

■開催概要

【開催日】９月 26 日（土）～27 日（日）
【会場】星ふる学校「くまの木」
【参加者】約 25 名（日本野鳥の会栃木のリーダー、財団事務局から３名）
【スケジュール】

26 日
- 10:00　開会
- 10:10　アイスブレイク
- 10:20　自己紹介
- 10:50　グループワーク
  （目指すべきリーダー像とは？）
- 12:00　昼食
- 13:00　「探鳥会リーダーの手引き（案）」の内容検討
- 15:00　会の歴史・概況
  （各委員会報告）
- 15:30　話題提供「リーダーと案内人」
- 16:20　情報交換
  ①探鳥会での工夫
  ②探鳥会で困っていること
  ③やってみたい新企画
- 18:00　夕食
- 19:30　懇親会

27 日
- 6:30　早朝探鳥（自由参加）
- 7:30　朝食
- 8:30　講義（リスクマネジメント）
- 12:00　昼食
- 13:00　説明（探鳥会保険、お試し会員など）
- 13:20　提案（支部と財団の連携）
- 14:00　実習（救急救護法）
- 15:00　講評
- 15:05　解散

■実施内容

日本野鳥の会埼玉のリーダー研修会を参考にしており、グループワークを基本とし、リーダーのあるべき姿を皆で議論するスタイルになっていました。財団事務局からは理事長がリスクマネジメントの講義を担当し、普及室からは支部と財団の連携について提案しました。

■探鳥会での工夫

１日目の最後のプログラムでは、探鳥会での工夫術や便利グッズ、お役立ち・楽しめるネタなどを会場で募集したところ、次々と手があがりました。アイディアの数々を紹介します。

・カレンダー写真を使った鳥合わせ

使い終わった「ワイルドバードカレンダー」（当会オリジナル商品）の写真を台紙に貼り、鳥合わせのときに使用する。綺麗な写真に参加者の反応も良いとのこと。

▲台紙に貼ったカレンダー写真を持つ吉沢さん（左）と小林さん（右）

・寄付入れと参加費入れ

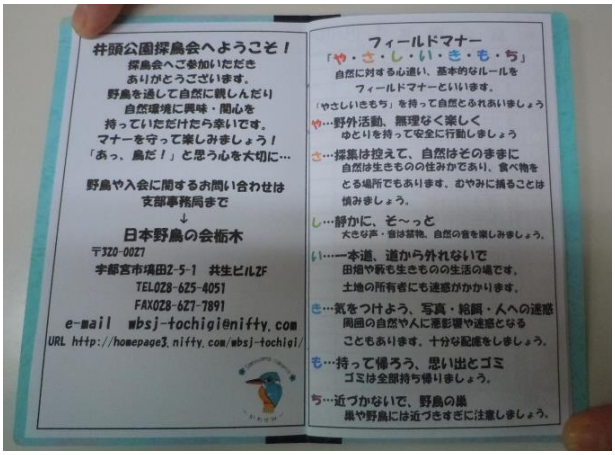
空き缶に、カレンダーの写真を撒いて作成。木の札は、園芸店の植木鉢に使われているものを利用。頼みにくい寄付のお願いも、木の実を加えたキレンジャクの写真を見せながら「キレンジャクもこうして寄付してくれています」の

一言に、柔らかい雰囲気になるとのこと。

▲寄付入れ（左）と参加費入れ（右）

・探鳥地オリジナルのミニノート
　これまで探鳥会で見られた鳥が記入されているノート。毎月の探鳥会で観察した鳥を１年分記録できる。一部 100 円で販売。

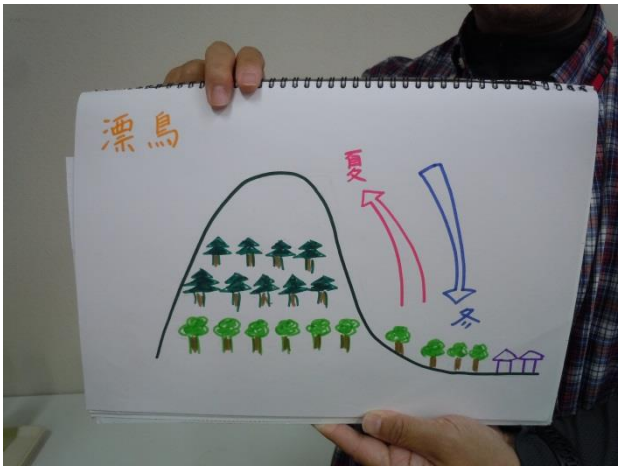
▲作成した井頭公園リーダーの齋藤さん



▲ノートの内容①

▲ノートの内容②

・用語をイラストを使って説明
　夏鳥、冬鳥、旅鳥などの用語を、スケッチブックに書いたイラストを使って説明する。



▲漂鳥の説明図

　その他にも鳴き声タッチペンの活用やルーペやカップレンズを使って昆虫を観察、本物に触れられるように翼標本を用意するなどの意見があがっていました。

■まとめ
　１泊２日の日程でとても充実した内容でした。栃木では、毎年の開催に繋げたいとのことです。
　今回取り上げた探鳥会での工夫は、１月開催の探鳥会リーダーズフォーラムの分科会テーマにもなりました。選りすぐりのネタをお持ちの全国の皆さんが工夫を共有できる場になればと思います。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年９月分）

９月は 68 支部からご報告をいただき、計 241 回の探鳥会が開催され、のべ 4,748 人が参加されました。

表１.９月の探鳥会保険集計結果（2015 年 10 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	20	4	1	25
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	7	3	2	12
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	13	0	1	14
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	31	6	4	41
小樽支部	2	9	7	2	18
苫小牧支部	0	0	0	0	0
室蘭支部	1	17	0	3	20
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	7	8	2	17
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	20	1	4	25
秋田県支部	4	44	1	4	49
山形県支部	3	21	5	5	31
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	14	5	2	21
北上支部	−	−	−	−	−
宮城県支部	4	49	9	9	67
ふくしま	2	43	0	4	47
郡山支部	2	38	0	6	44
二本松	0	0	0	0	0
白河支部	2	1	1	10	12
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	2	47	3	2	52
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	10	90	64	18	172
栃木	−	−	−	−	−
群馬	10	78	17	33	128
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	5	118	32	40	190
千葉県	8	102	32	34	168
東京	12	387	10	59	456
奥多摩支部	22	189	44	58	291
神奈川支部	9	128	48	34	210
新潟県	1	6	0	2	8
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	34	8	2	44
石川	3	31	1	7	39
福井県	3	15	4	3	22
長野支部	4	68	9	8	85
軽井沢支部	1	13	7	1	21
諏訪	1	3	1	2	6
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	19	0	2	21
富士山麓支部	1	5	0	2	7
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	18	0	2	20
南富士支部	1	21	16	2	39
南伊豆	1	10	0	2	12
静岡支部	3	26	2	7	35
遠江	4	71	10	13	94
愛知県支部	8	91	72	21	184
岐阜	-	-	-	-	-
三重	1	11	3	2	16
奈良支部	3	57	14	6	77
和歌山県支部	1	0	28	4	32
滋賀	5	33	31	10	74
京都支部	4	43	23	9	75
大阪支部	22	365	74	95	534
ひょうご	5	92	82	14	188
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	15	15	2	32
島根県支部	1	10	0	1	11
岡山県支部	3	73	52	9	134
広島県支部	3	17	42	6	65
山口県支部	-	-	-	-	-
香川県支部	5	86	36	5	127
徳島県支部	6	65	15	6	86
高知支部	2	22	23	2	47
愛媛	6	46	42	10	98
北九州	6	43	6	6	55
福岡支部	8	94	16	16	126
筑豊支部	4	22	3	8	33
筑後支部	3	29	3	3	35
佐賀県支部	2	43	24	2	69
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	2	13	3	2	18
大分県支部	2	16	15	2	33
宮崎県支部	1	5	1	1	7
鹿児島	1	24	2	3	29
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	241	3,128	983	637	4,748

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラムを開催します！■

前号でもお知らせしましたが、今年も探鳥会リーダーを対象にした探鳥会リーダーズフォーラムを開催します。このフォーラムは、支部の枠を超えて全国のリーダー同士が知り合い、交流を深め、探鳥会活動についての情報交換や交流をする場です。今年はどんな出会いがあるでしょうか。

このフォーラムに参加して日本野鳥の会のネットワークを実感しましょう！

【実施概要】

＜時　期＞　2016 年 1 月 30 日（土）13:00
～　31 日（日）12:00
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞
（株）日本エコプランニングサービス
＜会　場＞　八王子セミナーハウス
＜対　象＞　支部、連携団体の探鳥会に関わっている方
＜定　員＞　50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞　10,000 円（1 泊 2 日）
＜プログラム＞

1 日目	13：00	受付
	13：30	オリエンテーション
	14：00	アイスブレイキング
	15：00	第 1 分科会
	17：00	チェックイン、休憩
	18：00	夕食
	19：00	懇親会
2 日目	6：30	早朝探鳥会／自由集会（自由参加）
	8：00	朝食、チェックアウト
	8：30	全体集会
	8：45	第 2 分科会
	10：15	休憩、移動
	10：30	全体集会
	12：00	終了

▲去年の様子

【分科会】

分科会 A（1 日目）

A-①「女性パワーが探鳥会の雰囲気を変える」
川崎康弘（オホーツク支部）
A-②「若者向け探鳥会ネットワークをつくろう」　石亀明（東京）
A-③「リーダー研修会を考える」
手塚功（栃木）

分科会 B（2 日目）

B-①「ツバメのねぐら入り観察会のすすめ」
堀本理華（財団普及室）
B-②「見せます！やります！探鳥会の工夫 100 連発！」　吉沢雅宏（栃木）
B-③「“観る”から“保全”へ ～ヨシ原の保全活動～」　滝島克久（奥多摩支部）

◇お申し込み◇

■申込方法：　下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tancho2016
※ホームページからのお申込みが難しい方は、別途普及室までご相談下さい。

■申込期間：　2015 年 10月17日（土）～11月30日（月）（定員になり次第締切）

■参 加 費：　10,000 円

■振 込 先：　銀 行 名　三井住友銀行
支 店 名　目黒支店
口　　座　（普）６９７９９４８
口座名義　公益財団法人　日本野鳥の会　理事長　佐藤　仁志
※振込時は　ザイ）ニホンヤチヨウノカイで大丈夫です。
※振込人名の後ろに「フォーラム」と入れて下さい。
例）ヤチョウタロウ　フォーラム

＜お申込み関するお問合せ先＞
(株)日本エコプランニングサービス TEL：03-5807-1691（担当：松山）

＜その他フォーラム全般についてのお問い合わせ＞
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
メールアドレス：tancho-staff@wbsj.org
TEL： 03-5436-2622　FAX： 03-5436-2635

（普及室／箱田敦只）

■探鳥会スタッフ通信メール版の送信形態の移行について■

これまで探鳥会スタッフ通信のメール版は、Outlook で BCC を使って送信していました。現在当会の規程に基づき、よりセキュリティの厳しい財団の支援者管理システムを使って送信できるよう、準備を進めています。
それに伴い、以下について、ご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

（１） 購読の申込み時に、ご住所や電話番号をお知らせいただいていなかった場合、本人確認ができないため、システムに登録することが出来ません。
そのため、メール版をお届けできなくなります。
→申込み時の内容に不足があった皆さんには、tancho-staff@wbsj.org から、必要な情報の確認をさせていただきます。

（２）財団ではメールアドレスのご登録ある方へ、不定期でイベントの案内などを送っています。今回、メールアドレスをシステムに登録することにより、一時的にこのメールが届いてしまう可能性があります。
→初回については、ご容赦いただけますようお願いいたします。
ただし、不要なダイレクトメールが続くようでしたら、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

（３）送信方法の変更に伴い、何らかの理由により、探鳥会スタッフ通信を受信できなくなる可能性があります。
→「これまで届いていたのに、届かなくなった」ということがありましたら、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

野鳥誌 11 月号は見ていただけましたでしょうか？　この連載で述べてきたような裏話しは省いて、会員のバードウォッチング初心者の方でもご理解いただけるように、P18 から、新版の紹介をさせていただいたつもりです。今回は、秋に新版が役立ったことがあったので、その報告から・・・

◇シマアカモズ？カラアカモズ？ウスアカモズ？

「東京港野鳥公園にシマアカモズが飛来」とネット上で話題になり、多くの方が見に行かれたそうです。野鳥公園の当会レンジャーから、シマアカモズと同定してよいものか？ベテランが使うような図鑑の著者などに聞いてもなかなか回答が得られない・・・ということで、私にも、シマアカモズとして騒がれた写真が回ってきました。

シマアカモズはアカモズの亜種として、『フィールドガイド日本の野鳥』の初版にも高野による雌雄の図版が掲載されています。さらに新版では、日本鳥類目録の改訂第７版で掲載種となったセアカモズとモウコアカモズを追記した横に、改めて谷口高司さんにシマアカモズ（雄と若鳥）を描いてもらい、比較できるように並べました。モズ類は交雑例もあるし、換羽段階や個体差もあって、簡単には識別できないことがあるからです。

例えば、2012 年 12 月に神奈川県で観察されたモズ類は、その識別を巡って諸説が出され、議論が続きました。2014 年、日本鳥学会誌に渡部良樹さんらによる 8 ページに及ぶ観察記録が掲載されてからは落ち着いたようですが、そこには、モズ類７種、アカモズの亜種なども含めて細部まで比較検討した上で、セアカモズと考えられるように書かれています。

新版をお持ちの方は、P14「鳥の羽の名称」の右下を見て下さい。羽縁の内側にある模様をサブターミナルバンドと呼ぶように、図示してあります。次ぎに後ろの方になってしまいますが、P350「幼羽と年齢」をよく読むと、モズ、コオバシギなどの幼羽にはサブターミナルバンドがあるように書かれているはずです（これらの記載は、増補改訂版で追記しました）。今回の写真では、背などの羽毛にサブターミナルバンドが見えるので、この個体には幼羽があることになり、秋という季節から、今年生まれで、第一回冬羽への換羽が終了していない段階であることがわかります。

また、新版では、目録の改訂第７版の「検討中の種・亜種」をリストにしました。P370 には検討中のアカモズの亜種として、カラアカモズ、ウスアカモズの名があります。つまり、アカモズの亜種を同定するには、亜種アカモズ、亜種シマアカモズ以外の亜種も検討したほうがよいことになります。

◇亜種不明でもよい？

前述の渡部良樹さんには、新版でモズ類の追記原稿をお願いしています。彼にも調べてもらうために、東京港野鳥公園のレンジャーから識別の検討に使える複数のカットを送ってもらいました。その結果、種のレベルではセアカモズやモウコアカモズを思わせる箇所は写真からは見当たらないのでアカモズと思われました。が、亜種のレベルでは、赤味がない、過眼線が濃くないなどの点から亜種アカモズではない可能性はあるものの、亜種カラアカモズや亜種ウスアカモズについても調べた範囲では、幼羽を残した段階ではどれも否定しきれない、つまり亜種は決められない、という結論に至りました。

アカモズは『フィールドガイド日本の野鳥』などで分布図を見ると納得いただけると思うのですが、モズやチゴモズと比べて広い分布域があります。かなりの距離を移動しているアカモズもいそうだし、私自身はマレーシアなどでアカモズのさまざまな個体を見てきました。また、遺伝的独立によって種を区分するという考え方からすれば、種以下の単位である亜種は交配可能です。図鑑で亜種が識別できるように書かれていたとしても、亜種を同定できない個体がいても不思議はありません。

「亜種不明」については野鳥誌 11 月号でも書いたように、目録では改訂第７版から「種が同定できれば、亜種不明でも掲載種とする」という大きな方針の転換がされたばかりです。もちろん不明でよしとするためではなく、今後の検討を促すことに意味があるのですが、そもそも、種と亜種の違いがわからない人や、種や亜種を同定できない個体もいるということが理解できない人が少なくありません。

今回も「シマアカモズと決められないなら何なの？」と、執拗に食い下がる方がおられました。新版の P12 を使って「種を特定できないものもいる」とか、P23 を見せて「さまざまな姿勢や角度から確認できた特徴とともに、こんな個体がいたという記録を残すことが第一歩」などと解説させていただきました。

▲東京港野鳥公園で観察されて、シマアカモズとネット上で騒がれたアカモズ（撮影＝青木伸夫）。他にも違う角度からのカットを使って検討したが、亜種の同定にはいたらなかった。

◇コシアカツバメ問題その後

前々回の９月号で裏話しとして、コシアカツバメ問題を紹介しました。新版では、台湾の分布で参考文献とした 2009 年発行の『台湾の野鳥 300 図鑑』に沿って、コシアカツバメの分布図に、台湾では留鳥のように示されています。が、「近年の見解は違ってきているのではないか？」という指摘がありました。「今後の研究や文献の動向を気にかけておくようにしたいと思います。」としたので、その後の情報を紹介しておきます。

当会普及室の堀本理華らが、10 月に台湾でのバードフェスティバル（The 17th Taipei International Birdwatching Fair）に参加してきました。そこで、台北市野鳥学会から 2014 年発行の『Field Guide of Wild Bird in Taiwan』を貰ってきました。そこではオオコシアカツバメがコシアカツバメと別種として扱われており、オオコシアカツバメが留鳥で普通、コシアカツバメは少く、季節も限られるように書かれていました。

また、オオコシアカツバメの識別点についても、新たな観点が記されていました。コシアカツバメとの違いとして、日本の図鑑で「顔の赤褐色部分が後頭部まで及ばない」と書かれたものがあります。しかし、コシアカツバメでもそのような個体はいると思うので、そこだけで識別してよいものか？と考えていたのですが、『FieldGuide of Wild Bird in Taiwan』には別の識別点として、下尾筒の黒色部がコシアカツバメより広いような記載もありました。

コシアカツバメについては、大阪支部報『むくどり通信』９月号「和田岳さんの身近な鳥から鳥類学」第 28 回で取り上げられています。繁殖が終わった後も巣穴で寝る、10 月にススキ原にねぐら入りした、早朝に電線に並んでいた、越冬個体がツバメやイワツバメと一緒にヨシ原の集団ねぐらに入ったなどの興味深い観察例が紹介されている一方で、観察が十分でないので、渡りの実態やねぐらを明らかにしようなどと書かれていました。

実のところ、東南アジアでコシアカツバメとされる実にさまざまな個体を見てきた私は、種を細分化することを歓迎したくありませんでした。また、目録の改訂第７版では、オオコシアカツバメは検討中にもなっていません。が、今後、コシアカツバメに注目する際には、オオコシアカツバメとされるような特徴を持つ個体もいないか？など、注意してみようと思い直すことにします。

（普及室／安西英明）

【お詫びと訂正】

先月号の■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■のＰ９で、本間幸治さんのお立場に誤りがありました。「足立区環境課」と書かれていましたが、正しくは「荒川区環境課」です。PDF 版はすでに訂正済となっておりますが、本間幸治さんはじめ、関係者の皆さまには大変失礼いたしました。訂正してお詫び申し上げます。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 11 月号の電子メール版の購読者数は、先月から 4 名増えて 792 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信 11 月号電子メール版の購読者数（2015 年 11 月 19 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	3
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	24
宮城県支部	39	ひょうご	12
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	24	筑豊支部	19
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	37	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	51	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	19	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	792

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

紅葉も進み、冬の鳥たちのシーズンと共に鳥を見るのには最適な季節になってきました。今月からは「会員を増やすための探鳥会＝初心者向け探鳥会」が始まっています。お忙しい支部も多いことと思いますが、参加者の方々に寒さを忘れるくらい「探鳥会って楽しい！」と感じて頂けると嬉しく思います。私も参加させて頂く探鳥会もありますので、その際にはどうぞ宜しくお願い致します。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 32 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2015 年 11 月 20 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org